

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 28. 12. 13 第 192 回国会第 4 号

12 月 13 日（火）、第 4 回の委員会が開かれました。

1 農林水産関係の基本施策に関する件（畜産問題等）

- ・山本農林水産大臣、松本内閣府副大臣、齋藤農林水産副大臣、細田農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

笹川博義君（自民）

- ・畜産をめぐる厳しい状況について、農林水産大臣はどのように認識しているのか。
- ・牛・豚マルキンの補填率の引上げの要望についてどのように考えるのか。
- ・畜産物価格及び関連対策は、農家の再生産の意欲を鼓舞するものとするべきではないか。

稲津久君（公明）

- ・高病原性鳥インフルエンザ対策について、早期通報の徹底等を農家に働きかけるとともに、補償財源を十分に確保すべきではないか。
- ・生クリーム等の液状乳製品を加工原料乳生産者補給金制度の対象に追加するに当たり、予算の上積みが必要ではないか。
- ・肉用牛繁殖雌牛の生産基盤の強化に向け、どのように取り組んでいくのか。

小山展弘君（民進）

- ・日EU・EPA交渉の現状と今後の見通しはどのようになっているのか。
- ・TPP協定の発効が困難となる中、牛・豚マルキンに係る改正法については、他のTPP関連の改正法と切り離し、早期に施行すべきではないか。
- ・子牛の生産量が減り、価格が高騰している中で、一貫経営に取り組む農家への支援の充実を検討すべきではないか。

宮崎岳志君（民進）

- ・牛・豚マルキンに係る改正法については、競争力強化につながるならば、TPP協定の発効とは関係なく即時施行すべきではないか。
- ・全農の販売方式を無条件委託販売から消費税のインボ

イス方式の対象となる買取販売に転換した場合の農家への影響に対し、農林水産省としてどのように対応していくのか。

- ・農業競争力強化プログラムでは、全農は外部からの人材を登用することとしているが、農林水産省としては、どのような役職への登用を想定しているのか。

村岡敏英君（民進）

- ・平成 28 年 12 月 16 日に再開予定としている米の S B S 入札では、どのように契約内容の改善が行われたのか。
- ・平成 32 年の牛肉の輸出目標が 4 千トンであるにもかかわらず、輸出について畜産農家に過度な期待感を持たせているのではないか。
- ・日EU・EPA交渉の進展による農家の不安に対し、農林水産省としてどのように対応していくのか。

畠山和也君（共産）

- ・近年乳価が上昇しているにもかかわらず、乳用牛の飼養戸数や飼養頭数が減少していることについて農林水産大臣としてはどのように考えているのか。
- ・加工原料乳生産者補給金制度の補給金単価算定の根拠となる家族労働費については、労働の実態を踏まえた労賃単価とするべきではないか。
- ・農林水産省は、日EU・EPA交渉において、乳製品や豚肉については除外又は再協議の対象となるよう交渉を行っているのか。

吉田豊史君（維新）

- ・消費者のトレンド、ニーズをとらえた牛乳・乳製品の消費拡大についてどのように考えるか。
- ・地産地消の観点からの牛乳・乳製品のブランド化にどのように取り組んでいるか。
- ・牛乳・乳製品の国内消費を拡大するために価格を下げ

るには、どのような方策が考えられるか。

2 平成 29 年度畜産物価格等に関する件

- ・ 江藤拓君外 3 名（自民、民進、公明、維新）から提出された平成 29 年度畜産物価格等に関する件の決議案について、提出者小山展弘君（民進）から趣旨説明を聴取しました。
- ・ 採決を行った結果、賛成多数をもってこれを委員会の決議とすることに決しました。
（賛成一自民、民進、公明、維新、仲里利信君（無） 反対一共産）
- ・ 山本農林水産大臣から発言がありました。